

会議	委員名	意見箇所	意見又は質問	答申反映箇所
第4回 用紙	浜崎委員	全般	人口減少、超高齢社会が突入しているのではないかととも言われる中、10年後のまちはAI、DX、IoTなどの更なる技術進化により、人材不足への対応策等として効果的に導入が図られ、見たこともない異次元のスマートシティが拡がり、コンパクト・プラス・ネットワークの推進により社会状況や生活環境は大きく様変わりするのではないかと想定します。そのような中、 <u>将来都市像の実現に向け、まちづくりを市民、民間企業、地域団体など多様な団体と行政が互いにつながり協働し合うことで「みんなで創るまちづくり」を目指すことは実効性が期待できるものと高く評価します。</u>	0 前文
第4回 用紙	佐藤委員	全般	同じく戦略1の重要施策④「つながり支え合う地域づくり」にしたのもよいと思います。少子高齢化社会となっていく10年後を考えると、 <u>これからは年齢を問わず人々が支え合ったり、地域皆で助け合い、暮らしていくことが重要になると思う。</u> 厚木の魅力につながってほしいと思います。	0 前文
第4回 用紙	浜崎委員	全般	第11次総合計画『重点プロジェクト』の再構成（案）については、将来都市像へ向けた長期ビジョン、アクションプランにおける戦略・施策・取組等、及び6つの政策（28施策）にも全項目を網羅する内容となっており、 <u>実現に向けた具体的な方向性は厚木市の将来都市像と一致したもので明確に示されており高く評価します。</u>	0 前文
第3回	和縣委員	グラフ	人口の推移を示すグラフの中で、65歳以上の人の区分について「老年人口」と「前期高齢者人口」が混在しているので、 <u>統一をした方が分かりやすい</u> と思います。	1 全体
第3回	和縣委員	重点プロジェクト 戦略1（P30）	「スポーツ、文化芸術、歴史、観光など、本市に眠っているあらゆる資源を掘り起こし」との記載がありますが、「眠っている」というのはやや後ろ向きの印象を受けるため、 <u>前向きな表現に変更した方がよい</u> と思います。	1 全体
第4回	加賀谷委員	重点プロジェクト 戦略3	重点施策「①暮らしとまちを支える産業のまちづくり」の <u>意味が分かりにくい</u> と感じます。例えば、「産業の活性化によるまちづくり」など、 <u>もう少し字句を補足すれば分かりやすくなる</u> のではないのでしょうか。	1 全体
第4回	浜崎委員	施策 19産業・労働	「施策の目指す姿」では「働く人」、「取組方針」では「労働者」としているので、「働く人」に <u>統一した方がよい</u> と思います。また、客観指標が「事業所数」となっていますが、事業所数だけではなく従業者数も組み合わせるのが適切だと思います。	1 全体
第3回	中村会長	全般	<u>多様性の記載について委員の皆様から多くの意見が出ていますので、表現をよく検討して工夫する必要がある</u> と思います。	1 2 全体 序章

会議	委員名	意見箇所	意見又は質問	答申反映箇所
第3回	浜崎委員	策定の背景全般	こども、若者、女性、外国籍など、個別に項目を設けてしまうと、 <u>そこに記載された人たちだけをフォローするような印象を与えてしまう</u> ので、「多様性」という大項目を設け、その中でこども、女性等に分類する構成としてはどうでしょうか。	2 序章
第3回	山口委員	策定の背景全般	今回、国がこうした方向性を示してきたのは、若者や女性の東京への集中がこれまで以上に加速してきているという事実が存在し、これに基づいて国全体としての取組方針を掲げたものだと考えます。 一方で、 <u>本市においてはどのような状況にあるのでしょうか。</u> 国と同様の事実が存在するのであれば若者や女性の記載があっても構いませんが、反対に、国の状況と本市の状況が異なるのであれば、特段記載がなくても問題ないと考えますので、 <u>立脚する事実に基づいて内容を判断すれば良いと思います。</u>	2 序章
第3回	和縣委員	重点プロジェクト 戦略2（P31）	「女性にも選ばれる」という記載について、令和7年6月13日に閣議決定された国の「地方創生2.0基本構想」を踏まえたものであることは承知していますが、 <u>ジェンダーの観点からも、女性を強調することについて誤解を招くおそれがないように</u> 、表現に工夫が必要だと思います。 ジェンダーや年齢等に関わらず多様性の尊重が大前提であり、その中でも特に重点的に取組む課題として女性等が挙げられる、ということが伝わる表現にできると良いと思います。	2 序章
第3回	野元委員	2 人口の将来推計 (1) 将来人口推計（P20）	本市の将来人口推計における後期高齢者人口の記載について、平成27（2015）年から令和47（2065）年まで一貫して上昇を続けるように読み取れてしまいますが、本文の下に掲載されている表を参照すると、令和37（2055）年にピークを迎えてその後は減少していることがわかります。現時点と令和47（2065）年時点を比較した場合は確かに増加となってはいますが、 <u>そこに至る推移の中で、ピークを捉えた見方も重要となりますので、表現を工夫する必要がある</u> と思います。	3 人口・総合戦略
第3回	加賀谷委員	重点プロジェクト全般 （再検討）	<u>重点プロジェクトには全ての施策が含まれるわけではない点</u> と、位置付けられる施策についても、重点プロジェクトとしての取組の濃淡が区別できる記載とすべきだと思います。	4 長期ビジョン(1)
第4回	宮崎（昌）委員	施策全般 成果指標	<u>成果指標及び目標値については、アクションプランと併せて見直しを行うのか</u> 、今後の流れを説明してください。	4 長期ビジョン(2)
第4回	宮崎（三）委員	施策全般 成果指標	各指標に対する目標値が示されていますが、 <u>それぞれの目標を達成することがどれだけの難易度であるのか</u> 、例えば達成率を5%上げるためにはどれだけの作業量や労力を要するのか、今示されている情報だけでは理解できません。設定された目標値に対する難易度を5段階でランク付けして、 <u>各目標値のランクを示していただくなど、分かりやすい記載方法を検討してほしい</u> と思います。	4 長期ビジョン(2)

会議	委員名	意見箇所	意見又は質問	答申反映箇所
第4回	中村会長	施策全般 成果指標	計画期間の10年間で、少子高齢化は更に進展することとなります。高齢者福祉、障がい者福祉などについても、在り方が現在と大きく変わってくるはずですので、 <u>そのような変化もよく考慮した上で、目標値を設定してください。</u>	4 長期ビジョン(2)
第4回	和縣委員	施策 28魅力発信	客観指標「SNS登録者数」について、分かりやすい指標ではあるのですが、登録だけして情報を閲覧しない人もいらっしゃると思いますので、多くの人に情報を発信するという点では、閲覧数という視点も重要となります。とはいえ、当初から閲覧数を指標に設定するのは難しい部分もありますので、 <u>10年間の計画期間中にどこかの時点で指標を見直し、閲覧数への変更も検討していただきたい</u> と思います。	4 長期ビジョン(2)
第4回 用紙	田中委員	施策全般 成果指標	類似のコメントがありましたが、 <u>成果指標一覧における現状値がほかの類似規模都市に比べて良いのか悪いのか不明</u> です。わかる範囲に限定されますが、厚木市の位置付けの客観的評価の意味でも、 <u>何らかの比較ができる</u> と良いと思いました。あくまで、可能であればのコメントです。厚木市の特徴や課題、強みが明確になると思いました。	4 長期ビジョン(2)
第4回 用紙	野元委員	成果指標	長期ビジョンの「数値目標」や各種計画の「主な指標」に関わる部分については、「現状値」や「中間目標」「目標値」を示すことは重要ですし、この部分をわかりやすく簡略に示すことは適切だと思います。ただ、外部の委員や市民から見たとき、<u>現状値について、「過去10年の変化はどうだったのだろう。その変化に基づき、今後の中間目標や目標値は適切なのだろうか。過去10年の目標や推計と実績は乖離があるのか。あるとしたら何故か。」といった疑問に答えてくれるわかりやすい資料があれば、より議論が深まる</u>と思いました。 政策の真の効果は短期間では現れにくいですが、超高齢社会が進展する中での政策は、ある程度長期で俯瞰して考えることが大切だと感じています。 個人的に10年前に思い描いた景色（各種推計）と実績を追った資料の作成と分析を試みましたが、推計と実績が別資料だったり、3年ごとの小刻みだったり、一般には公開されていなかったりで、非常に困難でした。おそらく、各所管の職員も過去の10年を振り返り、今後の10年を考えられる資料に日常的に接する機会は少ないかと思います。ぜひ、歴史に学び、未来を考える参考資料等の作成や公表について、更にご検討いただければ幸いです。	4 長期ビジョン(2)

会議	委員名	意見箇所	意見又は質問	答申反映箇所
第4回	水谷委員	施策全般 成果指標 (主観指標)	各指標の目標値について、全体的に手堅い数値を置いており、慎重に設定をしているといった印象を受けます。こうした目標値設定では、市の思いが伝わりづらいのではないのでしょうか。 また、特に主観指標の目標値のうち、小数点以下の数値を設定しているものもありますが、切りの良い数値を設定した方が分かりやすいと思います。	4 長期ビジョン(3)
第4回	野元委員	施策 12消防・救急	指標である「救急車の現場到着平均所要時間」というのは、救急時にいかに早く救急隊が到着して治療が始まるかといった点で、市民にとっては他の施策の指標とはまた違った意味で重要なものであると感じます。 しかし、本指標の目標値の方向は横ばいの形となっています。高齢化が進む中で時間の短縮を図るのは難しく、現状維持でもやむを得ないことは承知していますが、そうした中であつても様々な取組を進めていただきたいと思います。例えば、消防・救急の分野におけるDXの推進はこれから取り組める余地が大いにあると思いますので、ぜひそうした視点で進めていただき、現状値の堅守に努めてください。	4 長期ビジョン(4)
第4回	宮崎(昌)委員	施策 02学校教育	現在、市教育委員会では、令和8年度を始期とする第3次厚木市教育振興基本計画の策定を進めているところですが、当該計画の内容や目標などは、第11次総合計画と整合しているのか、説明してください。 「みんなができること」の中に「児童・生徒の社会体験や奉仕活動に協力する。」という記載が、「 <u>市民ができること</u> 」と「 <u>事業者ができること</u> 」のそれぞれに同じ表現で書かれていますが、「 <u>事業者ができること</u> 」においては書き方を変えたほうが良いのではないのでしょうか。あわせて、この記載についても第3次教育振興基本計画の内容と整合しているのか、説明してください。	4 長期ビジョン(5)
第4回	和縣委員	施策 07社会教育 08市民協働	「事業者ができること」について、事業者の「参画」や「主催」といった、 <u>事業者が主体となる取組例を追加できると、より協働につながるのではないかと思います。</u>	4 長期ビジョン(5)